

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第25期・第1回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第25期・第1回）

議 事 次 第

- 1 日 時 令和3年3月17日（水）13:00～15:30
- 2 場 所 オンライン会議（Zoom）
- 3 出席者 秋山修志、石島秋彦、上田昌宏、上村想太郎、宇高恵子、
岡田眞里子、片岡幹雄、加藤晃一、川人光男、神取秀樹、
栗原和枝、笹井理生、七田芳則、諏訪牧子、寺北明久、
徳永万喜洋、豊島陽子、永井健治、中村春木、難波啓一、
野地博行、原田慶恵、坂内博子、山下敦子（24名）
- 欠席者 佐甲靖志、杉本亜砂子

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議 題

（1）第25期分科会役員選出

- ・世話人からの挨拶
- ・臨時議長の選出
- ・第24期最終合同会議議事要旨確認
- ・第25期分科会役員選出

（2）第24期からの引継ぎ事項と第25期分科会活動方針について

- ・第24期最終合同会議議事要旨確認
- ・IUPAB分科会と生物物理学分科会の合同開催について
- ・IUPAB congressに関する経緯説明と今後
- ・学術フォーラム、公開シンポジウムについて経緯説明
- ・「提言」に関する経緯説明と今後
- ・マスタープランおよびロードマップについて
- ・その他

- (3) 公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」の報告と今後について
 - ・第24期公開シンポジウムの報告
 - ・第25期学術フォーラム、公開シンポジウムの内容検討
- (4) 日本生物物理学会と日本学術会議IUPAP分科会の協力について
- (5) 次回分科会の開催予定について
- (6) その他

- 添付書類： 1. 第24期第4回最終合同会議議事録
- 2. 公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」のポスター
 - 3. 生物物理学会とIUPAP分科会の協力

5 議事要旨

(1) 第25期分科会役員選出

・世話人からの挨拶

原田慶恵世話人から、第25期基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同

生物物理学分科会および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同IUPAB*分科会を開催するにあたっての挨拶があった。

*IUPAB：国際純粋・応用生物物理学連合，International Union of Pure and Applied Biophysics)

・臨時議長の選出

第25期生物物理学分科会委員長が選出されるまで、第24期生物物理学分科会原田慶恵委員長が臨時議長として選出された。

・第25期分科会役員選出

第25期生物物理学分科会の委員長、副委員長、幹事の選出が行われ、協議の結果、委員長に原田慶恵連携会員、副委員長に上田昌宏連携会員、幹事として徳永万喜洋連携委員（議事録書記担当）が選出された。第25期IUPAB分科会の委員長、副委員長の選出が行われ、協議の結果、委員長に原田慶恵連携会員、副委員長に野地博行連携会員、幹事として永井健治連携会員が選出された。

(2) 第24期からの引継ぎ事項と第25期分科会活動方針について（資料1）

・第24期最終合同会議議事要旨確認（資料1）

第24期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回の第24期最終（第4回）議事録の内容に関して、メール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

・IUPAB分科会と生物物理学分科会の合同開催について

原田慶恵委員長から、IUPAB分科会と生物物理学分科会とは関連する内容が多いことから、これまで合同開催されてきており、今期も合同開催で行いたいとの提案があり、承認された。

・IUPAB congressに関する経緯説明と今後

IUPAB理事の野地博行IUPAB分科会前委員長からIUPAB関連の報告があった。

IUPABの大会である20th International Biophysics Congress (IBC) はブラジルで2020年10月に開催予定であったが、COVID-19の影響により1年延期された。2021年10月にオンラインにてvirtual meetingとして開催される方向で検討されており、近く決定される。

IUPAB General assembly (総会) は、これまでIBC会場にて行われてきたが、今回メール審議にて規定を改定し、今後はIBCとの同時開催でなくオンラインにてGeneral assemblyが開催されることになった。

▪ Asian Biophysics Association (ABA)と二国間交流

野地博行委員から、ABAと二国間交流に関して報告があった。

ABAの日本委員は、野地博行委員、由良敬 お茶の水女子大学教授、西坂崇之 学習院大学教授が務めている。2015年から3年間ほど、ABAの実質的な活動が行われていなかったが、2018年12月メルボルン開催の第10回ABA会議における理事会以降、活動が再起動されている。由良教授がABAホームページ再建、西坂教授が財務担当Executive Committeeとして尽力されている。

二国間交流に関しては、オーストラリアとの良好な交流の進展、米国生物物理学会 (Biophysical society) における林久美子 東北大学准教授のCommitteeとしての日本との接点拡大に向けた取り組みなど、日本からの貢献が報告された。

西坂教授の生物物理学分科会・IUPAB分科会における審議への参画が重要であることから、西坂崇之 学習院大学教授を、日本学術会議特任連携会員として幹事会に推薦することが提案され、全員一致で決定された。

▪ 学術フォーラム、公開シンポジウムについて経緯説明

原田慶恵委員長から、公開シンポジウムはこれまで年1回行ってきたが、第24期はCOVID-21のために開催予定の延期を余儀なくされ、2020年10月14日にオンラインで開催することができた。第25期も、従来通りに公開シンポジウムを開催してゆきたいとの提案があり、承認された。

▪ 「提言」に関する経緯説明と今後

難波啓一委員から、これまでの「提言」および「マスタープラン」に関する経緯の説明があった。平成29年(2017年)9月20日に提言「生命科学の発展を加速する次世代統合バイオイメージング科学の研究推進」

を公表した。提言は3年毎に行うのが望ましい。また、「次世代統合バイオイメージング研究所の設立計画」は、第23期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2017）」および第24期「学術の大型研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）」の「重点大型研究計画」として採択されたことに関し、説明があった。バイオイメージングに関する最先端の共同利用機関として提案したものであるが、最終的に「学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想ロードマップ」採択には至らなかった。

回を重ねてのマスタープラン提案の後、最終採択に至る例もあり、継続的な取組が望まれるとの意見が出され、第25期でも「提言」を出すよう取り組んで行くことにした。

・マスタープランおよびロードマップについて

永井健治委員から、文部科学省「ロードマップ2020」への応募に関して説明があった。学術会議「マスタープラン2020」の提言を受け、文部科学省の「ロードマップ2020」に、前回2017年と同様に大阪大学から応募した。2017年の結果を受け、大阪大学では永井健治委員が中心となり、「大阪大学先導的学際研究機構超次元ライフイメージング研究部門」を新設して準備してきた。「マスタープラン2020」提案は、次世代統合バイオイメージング研究所を設立し、生命科学、物理学、科学、数理情報・計算科学等を統合的に用い、生命システムに関するイメージング・計測技術の開発を行う、医療・創薬、有用物質生産等の産業的にも貢献する内容である。提案母体である日本生物物理学会に加え、多くの研究機関と広く研究者コミュニティから合意を得ており、国内・海外のネットワークからなる世界レベルの共同利用体制を構築するといった、大きな特長が紹介された。ヒアリングには至らなかったが、次回に向けた準備を進めている。採択された計画に関する情報を集める等して、取組を続けてゆくのが重要との意見が出された。第25期でも、永井健治委員を主軸に進めることが確認された。

(3) 公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」の報告と今後について（資料2）

・第24期公開シンポジウムの報告

原田慶恵委員長から、COVID-19により当初より延期してオンラインに

て2020年10月14日に開催された「公開シンポジウム「次世代統合バイオイメージングと数理の協働の展望」（資料2、コーディネーター：小松崎民樹 北海道大学教授、諏訪牧子委員、原田慶恵委員）について報告があった。

・第25期学術フォーラム、公開シンポジウムの内容検討

第25期においても従来通り、学術フォーラム・公開シンポジウムを2回開催することとした。今年度は、坂内博子委員が担当し、もう1名の担当者を今後人選する。

(4) 日本生物物理学会と日本学術会議IUPAP分科会の協力について（資料3）

原田慶恵委員長から、日本生物物理学会と日本学術会議IUPAP（The International Union of Pure and Applied Physics）分科会との協力を、IUPAP分科会より依頼されたとの報告があった（資料3）。具体的には、IUPAPのC6（The Commission on Biological Physics）との交流促進の提案である。日本生物物理学会としては、2022年韓国で開催予定のC6 Conference、Young Scientist Prize、シニア賞の創設等への協力を考えている。

野地博行委員から、IUPAB congress 2023において、C6 commissionとの連携を進める方針であると報告された。

笹井理生委員（IUPAP分科会委員、C6 Commission member）から、2022年はUNESCOのthe International Year of Basic Sciences for Development (IYBSSD)となっており、IUPAP分科会にてIYBSSDに合わせた活動を議論していることが報告された。

SDGs（Sustainable Development Goals）や感染症といった社会的な課題への生物物理研究による貢献について協力して取り組む、バイオインフォマティクス分科会との連携が有効である等の意見が出された。

(5) 次回分科会の開催予定について

原則年2回の開催で進めてゆく方針が確認された。可能な場合は、公開シンポジウムと合わせて行うことも検討する。

(6) その他

- ・片岡幹雄委員から、春開催の日本物理学会・年次大会に日本生物物理

学会から積極的に参加し、日本生物物理学会と日本物理学会との連携を深めたいとの提案があった。